

概要報告

実施期日	8月2日(水)
部会名	中学校 特別支援教育部会

神奈川県研究主題

個々の子どもの困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫

テーマ 『人とのふれ合いを通じて豊かな人間性を育むための取組』

提案概要

○実践に向けての課題意識

実践者の学校では、通常の学級と特別支援学級が関わり共に活動する機会が少なく、各教科の授業で交流をしている生徒も少なかった。交流級での生活の中で疎外感を感じている生徒もおり、関わる時間が少ないことが一つの要因と考えた。

生徒が共に学び、参加する活動を増やすことで、特別支援学級の生徒にとっては経験が自信になることで、積極的に社会参加しようとする意欲につながり、通常の学級の生徒にとっては人々の多様な在り方の理解、共に支えあう意識を持つことにつながると考え、多様な交流の機会を設ける実践を行った。

○実践の概要

自立活動の授業を中心に活動を展開した。

- ・「オープン8組」…毎月8の付く日を、昼休みに誰もが特別支援学級に遊びに来て良い日とした。
- ・「七夕ロード計画」…特別支援学級前の廊下に、笹で七夕の飾り付けをし、全校に短冊を呼びかけた。
- ・「体育祭」…特別支援学級の競技種目のダンスを全校生徒に呼びかけ、皆で行った。

○実践を通して見られた生徒の変容

- ・交流級に入りたがらなかった生徒が、自ら交流級の教室へ宣伝に行くようになった。
- ・多数の通常の学級の生徒が、体育祭でのダンスに参加し、特別支援学級の生徒と共に踊ることができた。

○成果と課題

- ・昨年までは互いに顔を知らなかった生徒同士が、廊下で声を掛け合う姿や自然と手助けされる姿が見られるなど、今までと異なる友人関係の中で社会性が育まれていた。
- ・交流を積極的に望む生徒とそれを苦痛に感じる生徒に分かれてしまったことが課題であり、特別支援学級が生徒にとって安心できる居場所となるよう、個々の実情に応じた支援を丁寧に考えながら慎重に進めていく必要がある。
- ・特別支援学級の教職員だけでなく、すべての教職員が同じ認識をもって交流及び共同学習等を組織的に行っていくことが課題である。

質疑応答

- ・今回、同一学区の小・中学校が同じテーマを実践していたが、計画的に連携していたのか。
⇒偶然、それぞれが「交流」について課題に感じており、取組は連携したものではない。
今後、継続性を意識した小・中での連携をとっていくことが必要と考える。

協議の柱及び協議概要

- 研究協議の柱①「学校全体で取り組んでいる交流の情報交換、各校での実践例」
 - ・特別支援学級の担任と交流級の担任で交換授業をした。普段、交流級にいる生徒が特別支援学級でどのような活動をしているかなど、特別支援学級の学習内容を、全体で見ることができ大変有意義だった。
 - ・朝の活動で学校全体でのレクを取り入れるなど、交流できる場面を意図的に設定した。生徒主体で楽しめる活動を設定することが大切であること、勝ち負けが気になる生徒もいるため、事前事後の準備が大切であることを意識した。
 - ・交流級担任、特別支援学級担任、保護者の三者面談を実施し、生徒の情報を保護者のいる場で共有できるようにした。
 - ・交流級担任と生徒との面談時間を設定し、「どのような支援があると交流級での活動に参加しやすいか」について話し合った。
- 研究協議の柱②「交流を苦手とする生徒への支援方法、手立て、工夫の実践例」
 - ・個々の特性に応じて、事前に活動内容を絵カード等でわかりやすく提示している。
 - ・特別支援学級だけでなく学校全体で、困ったときに相談するための絵カードを作っている。
 - ・ICT機器のアプリケーションを活用することで、どの生徒も活動に参加できるような授業を目指している。

まとめ概要

全体的な生徒数が増えていない現状で、通常の学級以外で特別支援教育を受ける生徒数は年々増えてきている。別の場所で教育を受ける生徒が増えている状況の中、小・中学校では交流及び共同学習を充実させる必要がある。

交流及び共同学習は、障がいの有無や在籍学級に関わらず、その活動に意義を感じ、全ての生徒の成長に寄与するものでなければならない。特別支援学級の生徒にとっても、通常の学級の生徒にとっても、環境設定や取組の工夫によって、交流を行うことは社会的自立に向けよい学びの場になる。特別支援学級の生徒については、個別の教育支援計画に則って行われるものであるが、どのような支援によって、どのように行動に変化があったかを把握し、改善や次の取組につなげていく必要がある。生徒により個人差はあるが、本人の気持ちに寄り添うことは勿論、どうすれば本人が主体的に自己決定しながら、交流活動に参加できるようになるか、それぞれの生徒に合った方法を教員が考え、学校全体としてより良い交流及び共同学習に繋がるような取組が求められる。